



会員企業をたずねる

女性の力、女性の声

このコーナーは、会員企業をたずね、物流業界で働く女性社員に業務内容や、職場の取り組み、個人の抱負などを語ってもらうコーナーです。



本社ロビーに飾られている
「NYK SUPER ECO SHIP 2030」の模型の前で

第12回

日本郵船株式会社

企画グループ
グループ長代理
小杉 桂子さん

PROFILE

1989年入社、定航第二部。1994年～海外勤務（シンガポール・ロンドン）。2000年帰国、自動車船第一グループ。2003年企画グループ、2006年10月同グループのチーム長に。2008年経営企画グループ調査役。2009年環境特命プロジェクト室室長代理。2012年日之出郵船(株)、2013年NYKバルク・プロジェクト貨物輸送(株)に出向等を経て2015年現職に。一般社団法人日本船主協会会長秘書を兼務。北海道出身、東京育ち。

入社是一般職、 女性初の海外駐在員に

——まずは入社直後の頃についてお聞かせください。

最初に配属されたのは定期航路の営業・運航を行う部署です。中南米・アフリカ航路のオペレーション担当になりました。当時の女性は皆一般職としての入社でした。途中で女性を対象とした準総合職に移行できる制度があり、私も3年目に試験を受けたのですが、もともと男女差なく忙しい職場だったので、職掌変更後も特に変化は感じませんでした。

——数年後に女性初の海外駐在員に抜擢されたとお聞きしています。

自動車船の欧州チームに所属していた1996年の7月、シンガポールに長期出張を命じられました。この出張にはいつまでという期限がなかったのです。しばらくして本社に呼ばれ帰国したのですが、出張の終了ではなく、10月からの正式辞令のためでした。こうして、女性初の海外駐在員として赴任することに。それに伴い準総合職から転勤がある総合職に再び変更。さらに2年後にはロンドンへ異動となり、海外暮らしは4年以上も続けました。

——小杉さんの後に続き、女性駐在員の方も増えているそうですね。

はい。当社では、女性活躍推進法の行動計画の一環として、2016年4月から2021年3月の5年間で、女性の海外勤務者を延べ80人以上にすることを目指しています。また、2001年には一般職と総合職の区分を撤廃・一本化するなど、性別に関係なく働き続けられる環境の整備に取り組んでいます。

未来の船「NYK SUPER ECO SHIP 2030」プロジェクト

——帰国後の配属先はどちらですか。

自動車船グループ米州チームです。そこでラインマスター（課長代理）として営業や契約交渉を担当しました。2003年には企画グループに異動、外国人船員政策や運航船の船隊整備に携わりました。同グループは経営に直結する部署のため、財務や船の構造といった知識の習得、経営陣への説明など苦労もありましたが、良い勉強になりました。

——環境特命プロジェクト室では、どのような仕事を担っていたのですか。

同室は、環境対策について会社を挙げた取り組みを本格化すべく設置されました。その中で柱となった取り組みが「NYK SUPER ECO SHIP 2030」プロジェクトです。（株）MTI、エロマティック社（フィ

ンランド)、ガローニデザイン(イタリア)と共同で、2030年時点の環境技術を予測した省エネコンテナ船とはどういうものになるのか。社内からもアイデアを募りながら船の姿を描いていったのですが、多くの人にわかってもらうため、報告書だけでなく模型やアニメをつくることになりました。時間が制約された中での作業は大変でしたが、多くの関係者のサポートを得て乗り越え、完成の記者会見後には多くの反響がありました。

「この上司の下で働きたい」

——管理職になって仕事に対する受け止め方など心境の変化はありましたか。

どんな仕事も一人ではできません。だからこそ、自分の考えをいかに周囲に分かってもらうかが重要です。管理職となり、その重要性や責任の重さをあらためて実感しています。また、理屈ではなく、いかに「この上司の下で働きたい」と思ってもらえるかも大事です。私自身そう思わせてくれた上司が何人もいますし、自分もそうありたいと思っています。リーダーは、仕事のみならず、人としての資質も常に問われていると感じます。

——「女性初」という役割も多かったようですが。

なったのは偶然です(笑)。私自身は、女性ということをあまり前面に出



日本郵船水泳班の皆さんと、試合後の懇親会

さなくてもいいのではと考えています。駐在を経験してあらためて思ったのですが、男女差もそうですが、国による考え方や文化の違いの方が大きいですし、一人ひとりの個性の方が大事です。仕事の上で男女差はそんなに問題ではないかなと。ただ、体力の点では男性の方が有利ですね。チーム長になったとき、部下の男性が皆さん優秀なうえに体力もある人ばかりなので、「私が倒れるわけにはいかない」とあせったことがあります。そこで体力増強のため、趣味の水泳の練習を増やしたり、その延長線上でトライアスロンも始めました。体力に自信がつくとともに、「私でも何とかなるな」と前向きになります。

——お忙しい毎日ですが、ワークライフバランスをとる上で、オフタイムはどのように過ごしていますか。

水泳やトライアスロンをのんびり続けています。また、マンションの理事長を務め、地域の寄り合いなどに参加しています。若いころはあまり考えなかったのですが、こうした活動を通じて社会に貢献することも大切なことだと思うようになりました。

——ありがとうございました。

会社概要

日本郵船株式会社

本社所在地: 東京都千代田区丸の内2-3-2

設立: 1885年9月29日

代表者: 代表取締役社長 内藤 忠顕

支店: 横浜、名古屋、関西、九州、台北

保有船舶数: コンテナ船、LNG船、自動車運搬船、チップ船など計781隻、客船1隻、計782隻(2016年3月)

【事業概要】

1985(明治18)年、郵便汽船三菱会社と共同運輸会社の合併により日本郵船会社を設立。日本初の遠洋定期航路をはじめ新規航路の開発に努めながら、世界有数の海運企業として発展してきた。現在は、「海・陸・空にまたがるグローバルな総合物流企業グループとして、安全・確実な「モノ運び」を通じ、人々の生活を支えること」を基本理念とし、国際的な海上運送業を中心とした総合物流事業および客船事業、ターミナル関連事業、海運周辺事業、不動産業他を展開している。

